

第4回そだつ部会会議録

日 時	2015年9月9日(水) 10:00~12:00
場 所	播磨町地域連携交流施設
テ ー マ	1、参加メンバー 2、協議課題 3、その他 4、次回開催日の調整
内 容	<p>1、参加メンバー：9名 「夏の思い出」と自己紹介</p> <p>2、協議課題</p> <p>○「支援をつなぐ」について</p> <p><b>内容の提案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に向けてオープンスクールを利用。対象は、3～4才児</li> <li>・通級・特別学級、支援学校の違い→将来どうなるかの見通しが出来ていない</li> <li>・就労（企業就労の希望が多い 進路が分かっていない）</li> <li>・校種、クラスの違いを説明</li> <li>・教育委員会では様々な場面で説明等を行っている→定期的にするのがいいか？</li> <li>・就学に向けての話（どんな所がある？どんな子たちが通っている？Q&amp;A）</li> <li>・保護者が何を望んでいるか？（ニーズに答えたい）</li> <li>・支援学校、教育委員会の説明に保護者の体験を組み合わせる</li> </ul> <p><b>意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に向けて直前に見に行くのではなく、何年か前から考えて、子どもをどのように育てて行きたいか、就労はどのようになるのか、考える機会になればいい</li> <li>・保育園・幼稚園では教育委員会から「相談に来てほしい」「支援学校・学級の見学をしてほしい」と連絡している。同行して見学することもある</li> <li>・播磨町の幼稚園・保育園以外に通っているひとへの、周知の仕方を今後考える必要がある</li> <li>・事例や学校・学級を途中で代わる事が出来ることを知らせたい</li> <li>・3学期の時期に、年少年中のこれから考える余裕のある人に就学について伝えたい</li> <li>・親同士で誤った認識をされる場合がありますが、教育委員会やすこやか環境グループで相談にいった、正しい知識を得るようにしてほしい</li> <li>・保護者の体験談も組み合わせの方がいい</li> <li>・支援の体制が気になる話も聞くので、その内容を伝えたらどうか</li> <li>・教育委員会がやっていることと同じことになってしまわないか →オープンスクールと合わせて開催して、見学会をセットにしてはどうか</li> <li>・支援学校のオープンスクールに来られる方は、どんな人がいるのか →入学希望の人や学校に興味のある人 →開設当時は、どんな学校なのか地域の人が見に来ていた。最近は、地域の支援学級に通っているが、進路の選択で悩んでいる人。当事者の保護者が多い。未就学の人も1日2～3人程度いる（高砂児童学園など）</li> <li>・支援学校を全く考えていない人がいる。そういう人に見学の啓発がいるのではないか →幼稚園・保育園で気になる子には、見学を勧める声かけをしてもらっている</li> </ul>

- ・未就学児か、児童かで興味が違うのではないか
- ・児童発達事業所と連携を取って、学校に見学に来ないか声がけできたらいい
- ・受給者証を持っている人を対象に、児童発達・放課後デイサービスで分けて、講演ができたらいい
  - どちらかに対象を絞った方がいい
- ・東はりま特別支援学校の次のオープンスクールは、10/5～10/9に行われる
- ・オープンスクールに行くきっかけになればいい。ツアーのようにみんなで行くと心強い
- ・播磨町の人が通っている事業所には、広報が出来る
  - 受給者証を持っている本人に、ダイレクトに広報は難しい
  - 児童発達の事業所・相談支援事業所に、広報して声がけしてもらおう
- ・10月のオープンスクールは、日程的に難しい
  - 民生委員が地域連携交流施設で勉強したあとに、東はりま特別支援学校を見学する事があったが、同じように3月頃にできないか
- ・他市との連携もできるのではないか
- ・未就園児への対応はどうするのか
  - 対応の検討が必要
- ・事業所の見本市みたいなものもあってはどうか
  - 教育委員会と事業所とは、時間・場所はずらしてほしい
- ・障害児受け入れ可能な体操教室など地域資源の紹介もしてはどうか
- ・事業所や地域資源の紹介の方向は、「地域に根ざした、多様な人々が対等に関わり合いながら共有・一体化する」などのルールを目標にしてはどうか。事業所の活動ばかりが目立たないほうがいい

#### まとめ

- ・主体は、播磨町地域自立支援協議会
- ・内容は①教育委員会と東はりま特別支援学校（それぞれ30分程度）で講演をする
  - ②東はりま特別支援学校の見学
  - ③個別の質問・相談にのる
- ・広報 福祉グループから事業所に周知
  - 播磨町広報に開催記事を掲載
  - 保育園・幼稚園（3～4才の園児）にチラシ配布

#### 宿題

- ・東はりま特別支援学校・・・開催可能か
- ・教育委員会・・・東はりま特別支援学校と内容の検討

○正確な情報の伝達

▽そだつマップ作成について 事業所調査票・事業所紹介ページ（案）提案

#### 宿題

- ・調査票や紹介ページの内容を、各自検討し次回部会に皆で検討

○かけはし改編について

▽「かけはし」の改編の有無の確認

「かけはし」の成り立ち

- ・かけはしは平成23年より作成
- ・「かけはし」の目的は、自己紹介のツールで播磨町バージョン
- ・事業所、学校、医療において、口頭で説明する時のフォロー
- ・支援者など本人を理解する人との「かけはし」になるように命名
- ・現在は播磨町の中で、当事者や支援者に広がりつつある
- ・「カフェ（書き方教室）」を年2回行っている
- ・課題は、どう書いたらいいかわからないと意見がある
- ・利用者や使用者にとって、内容がどうあったらいいのか今後検討が必要

意見

- ・「かけはし」作成当時は相談支援なく、途中から始まった
- ・親亡き後の本人説明を誰がするのか。小さい時ことも大切だが、大人が自分の事を決定する時に参考にできる
- ・学校生活以外の部分は、家族が書かないと忘れてしまう
- ・相談支援や教育支援計画、個別支援計画を活用できる。保護者の書く負担を減らすべきではないか
- ・教育委員会から「かけはし」の所有率を調査中。声がけは行っている
- ・一緒に保管する資料のリストアップをのせてはどうか
- ・臨床心理士になぜ書けないか聞いてみた。播磨町の「かけはし」は書く量が多すぎると言われた
- ・毎年1枚シートにしてはどうか。詳しい事は、療育や相談事業所等のアセスメントで見てもらおうようにしてはどうか
- ・保護者しかわからない事を書くことで役割分担してみてもどうか  
→何を書けばいいか項目を絞りたい

まとめ

- ・改編はしていく
- ・内容に関してはもっと簡略化する。保護者しかわからない部分を書く
- ・相談支援や個別支援計画と一緒に保管してもらう

宿題

- ・学齢期の子を対象にした「かけはし」の案を各自作成し、次回皆で検討する

3、その他

○くらす部会 宿泊体験：9月4日（金）～5日（土） 男性4名（高校生1名）予定

10月30日（金）～31日（土）女性2名予定

○はたらく部会 はたらく現場見学会（エスコアハーツ）：10月19日（月）10：30～

第2回はたらくみんなのお茶会：平成28年3月6日（日）10：00～

○第2回推進会議・全体会：平成28年2月26日（金）

内容：高齢障害者について

4、次回開催日の調整

平成27年11月4日（水）10：00～12：00

場所：地域連携交流施設